

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2023年(令和5年)2月15日号 No.1916

目次

■ 中古車対口輸出のこの1年と今後	齋藤 大輔	1
■ 統計速報		8
2023年1月のロシアのブランド別乗用車販売台数/8		
■ トピックス		9
日本政府、ロシア産石油製品に上限価格を設定/9		
ロシア政府、外貨強制売却を一部撤廃/9		
アフトヴァズが旧日産工場で生産再開へ/9		
AGC、ロシア事業の譲渡検討を開始/9		
三菱重工がウズベキスタンからガスタービンなどを受注/9		
ユニクロ、ロシアから撤退か/10		

中古車対口輸出のこの1年と今後

(一社)ロシアNIS貿易会 ロシアNIS経済研究所
部長 齋藤 大輔

はじめに

ロシアがウクライナに侵攻した昨年2月以降、日本からロシアへの自動車輸出は激変した。新車の輸出がストップする一方、中古車の輸出は急増した。ロシア極東の中古車ビジネスに何度目かのブームがやってきた。円安で輸出金額が大きく伸び、制裁下で苦しいはずのロシアからのマネーの流入が、日本の市場を直撃した。欧米日メーカー撤退後のロシアでは、中国ブランド車が販売を増やしている。中古乗用車の対口輸出のこの1年を振り返るとともに、今後を展望してみたい。

1. 制裁下で売れる日本製中古車

ロシアのウクライナ侵攻はロシア極東を中心とする中古車ビジネスを一変させた。制裁下のロシアで日本の中古車の売れ行きが伸びるという事態は、まったくの予想外の出来事だった。

2022年1月から12月までの最新の統計を見ると、中古乗用車のロシア向け輸出は、台数が20万4,868台と、前年と比べ33.7%の増加となった。金額は2,508億円と、同154.2%の増加となり、2008年以来、14年ぶりに20万台、2,000億円を上回った。

中古乗用車の輸出の動きを振り返ると、ロシアの軍事侵攻と西側諸国の制裁など異例の事態に翻弄された1年だった。